

学校体育における「社会人基礎力」の育成に関する一考察

A study of bringing up “fundamental ability of member of society” in school physical education

1K08A084-6 工藤 慎平

指導教官 主査 吉永 武史 先生 副査 深見 英一郎 先生

【序章】

本研究の目的は、社会人として活躍するための前段階である学校が、社会に出るための準備をいかにしてすべきか、そして学校体育がどういう役割を果たすことができるか、その手段と可能性を検討することである。基礎学力という視点ではなく、社会人として活躍するための能力を学校でいかにして育成することができるか。社会が求める能力を、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」を参考にして考え、座学という授業形態をとらない体育にこの社会人基礎力獲得の可能性が大いにあると考え、これからの体育のあり方を考察していくこととした。

【第1章】これからの社会が求める人物像

経済産業省の提唱する「社会人基礎力」が提唱された経緯とその必要性を確認し、社会人基礎力の3つの能力、12の能力要素を明示した。そして経済産業省と大学生とが連携して行ったインタビュー記事を参考にして、実際の企業の人事がどのような能力を持つ人材を求めているかを考察した。そこから学力ではなく、社会人基礎力に近い能力を持つもの、あるいはその能力が今後成長していく期待が持てる学生を、求めていることが分かった。そして大きな問題は、企業が見る学生の能力と、学生自身が考える自分の能力に大きな認識の違いがあることだ。企業が重視する能力と、学生が伸ばそうとしている力にギャップが存在していることを明示し、このギャップの解消についての方策を考察した。

【第2章】学校体育が目指す人物像の育成

スポーツは社会性を身に付けることができると一般的に言われている。では体育は学校教育の中でどういった役割を担い、どのような人物を育成してきたのか。学習指導要領の変遷を参考に、体育が歴史的にどのような教育目標を持って行われてきたかを考察したところ、学校体育がその時代に求められる人格形成に大きく寄与して

きたことがわかった。そして現代は、新たな時代を迎え、円熟した市場の中、国際的な競争、いわゆる「知識基盤社会」を引っ張ることのできる人材が求められていることがわかった。現在の体育の教育目標を確認したところ体育の学習効果が社会性として日常生活で発揮されることが期待されていることがわかった。産業界と教育界とで連携のとれた人材育成について考察した。

【第3章】社会人基礎力獲得のための体育の授業

他教科とは異なる授業形態をとる体育の授業が社会人基礎力獲得のためにどのような授業を展開していけばよいか、またどのような可能性を持つのか考察した結果、体育で取り扱うスポーツがコミュニケーションツールになっていることがわかった。身体活動の技能のみに焦点を当てるのではなく、その技能の活かし方を考え作戦を立てたり、集団意識を高めることで、体育が社会人基礎力獲得に大きく貢献できることがわかった。生徒が自ら学ぶことができる授業の条件を4つ挙げ、体育教師は、技能の指導だけではなく、授業の雰囲気を作り、生徒を意識づけさせることも大きな役割であることがわかった。

【結章】

就職活動で苦勞する学生が増える中、企業側も学生の能力不足に悩んでいる。就活がマニュアル化し、本来の学生像が見えにくくなってしまっている。学生は就活本に書いてあることを信じすぎてしまい、企業が本当に必要としている人材像を理解していない。またそれを教えてくれる人もいない。このような課題の解決のために、産業界と教育界とが連携を取り合い、我が国を成長へと導く人材の育成に取り組むべきであると考えた。学校の現場で学生・生徒が社会に出て活躍する、十分な準備ができるように、学習指導要領に「社会人基礎力」という言葉を採用することを提案し、本研究のまとめとした。